

地域人材の育成と地元就業を支援する



# かごしまCOC+通信

KAGOSHIMA COC+ NEWSLETTER

第4号  
平成29年10月

かごしま学卒者  
地元定着促進協議会

## COC+8校協働による地元企業見学バスツアーを初めて実施

# 意外と気付いてなかった地元企業の「魅力」に触れる！

9月1日から15日までの間で、県内5コースにおいて日帰りの「地元企業よかとこ発見バスツアー」を実施した。これはCOC+8校協働による初めての取組で、合計119人の学生と教職員が参加した。



「魅力」発見に出発！

「学生は意外と地元企業を知らない、または知ろうとしない」とよく言われている。さらに「地元には自分の夢を実現できる企業が少ない」といった

思い込みすらあるとの分析もある。このようなことから、まずは学生が地元企業を知り、地元企業の魅力に触れてもらうことを目的に実施した。



車内での説明の様子

実施に当たっては、コースごとに大学・高専が担当校となり、訪問企業との調整などを行った。訪問した企業は、国内外に誇れる技術を持った企業や

鹿児島を代表する「食」に関連する企業、鹿児島発の新分野の企業などで、これらは鹿児島の多様性と発展可能性を感じさせる企業であった。

今回、業務多忙な中で見学を快く受入れていただくとともに、事前準備や当日の対応などで大変お世話になった訪問企業の方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。本来ならば訪問した全企業での様子を紹介したいところであるが、紙面の都合もあり、各コース1社の掲載となることを御理解いただきたい。

**大隅コース**(9月1日)は第一工業大学が担当し、(株)ナンチク・(株)さかうえ・山佐木材(株)を見学した。

このうち(株)さかうえでは、有機循環型の土を使った契約栽培(ケール、キャベツ等)や、日本に3台しかない自走式大型機械による牧草飼料事業、さらには農業IT化等の説明を受けた。同社は、農業工程管理システムによる農業の効率化など「新しい農業価値の創造」を目指しており、このシステムは事業拡大を図る農業生産法人等で導入されている。社員の過半数が20~30代という若い社員の話に学生たちは興味深く聞き入り、新しい農業の方向性を実感していた。



説明に聞き入る学生たち

### 学生からのコメント(一例)

- ・IT化で、農業はこれから未来のある産業だと感じた。
- ・自分のイメージしていた農業と異なり、興味を持った。

**南薩コース**(9月5日)は志学館大学が担当し、本坊酒造(株)・(株)エルム・南薩食鳥(株)を見学した。

このうち(株)エルムでは、360度のパノラマが楽しめる社屋にまず感動し、昼食場所として提供いただいた最上階の社員食堂で、地元食材を使った地域おこめの弁当で昼食をとった。その後、実際の機器に触れながら、LED、ドローンや太陽光パネル等の電子部品などの商品開発の説明を受けた。意見交換では、社員から入社の経緯、人生観等につ



経営者も交えて意見交換

いての話があった。また、鹿児島から世界を見据えて常に挑戦し、ないものを生み出していくという社長の話に、学生たちは引き込まれていた。

#### 学生からのコメント（一例）

- 様々な分野に挑戦していくことの大切さを学んだ。
- 社長の考えを聞いてよかった。言葉が印象に残った。

**始良・伊佐コース**（9月6日）は鹿児島工業高等専門学校が担当し、(株)ユピテル鹿児島・(株)トヨタ車体研究所・(株)九州タブチを見学した。

このうち(株)九州タブチでは、給水栓、特殊バルブな



まずは玄関前でパチリ!

ど製品の製造・加工の工場見学のあと、概要説明、社員等との意見交換を行った。意見交換は、社員一人ひとりの熱意や自社愛が伝わっ

てくるものだった。また、社長が企業理念等について話され、自分の子供に就職してほしい企業を目指しており、そのためには社員の満足度を重視し、「どこで働くか」でなく「誰と働くか」が大切という言葉が印象に残った。

#### 学生からのコメント（一例）

- 社風で企業を選ぶのもいいなと思わせてくれた。
- 地域密着のアットホームな雰囲気を感じた。

**鹿児島コース**（9月7日）は鹿児島国際大学が担当し、(株)現場サポート・(株)阪東機工を見学した。

このうち(株)現場サポートでは、「働き方改革」、「顧客満足度以上に先ずは従業員満足度」をキーワード



プログラムづくりの実演と説明

にして社長の講話があった。その後、セールスサポート部門など3部門の業務現場を社内で見学した。デモンストレーションも交えて実際の業

務について分かりやすく説明を受け、ITで建設業をサポートすることを理解した。そして学生たちに

としては、会社のHPだけではなかなか分からない、アットホームで明るい職場環境が印象的だった。

#### 学生からのコメント（一例）

- 明るく楽しい雰囲気、会社で働くイメージが変わった。
- 部門で仕事内容は違うが、社員の心の壁を全く感じない。

**北薩コース**（9月15日）は鹿児島大学が担当し、アロン電機(株)・(株)川北電工・濱田酒造(株)を見学した。

このうち、アロン電機(株)では、会社概要について説明を受けたあと、金型冶具工具や自動機等の製造工程を見学した。特に、出荷時の焼酎ビン異物混入検知装置を稼働させ、異物混入のビンと正常なビンを正確に判別する様子に、学生たちはニッチな分野での「ものづくり」に驚かされた。また、若手社員との意見交換で



ほとんどが初めての製造現場見学

は、参加者全員の年齢も近く、入社決め手、やりがいと苦労など多くの質問があり、時間が足りないほどであった。

#### 学生からのコメント（一例）

- ニッチな産業こそ郷土の強さだと思った。
- モノづくりにひたむきな姿勢が素晴らしいと思った。

今回の地元企業見学バスツアーで、参加学生はかねて見学することができない工場内を見学し、経営者の話を直に聞くとともに先輩社員との意見交換などを通じて、働くことのイメージをしっかりと描いていたようだった。

そして何よりの収穫は、参加学生のほとんどが、これまであまり知らなかった地元企業を知り、その魅力に触れ、そして地元就業に関心を示すきっかけとなったことであり、学生のアンケートでも好意的な結果が得られた。また、大学の垣根を超えて他校の学生との交流の中で、地元就業についての「思い」を共有できたことも大きな成果であった。